

平成29年度 学校評価シート(後期)

<学校経営方針の重点>

1 確かな学力の向上 2 心の教育の推進 3 健やかな体の育成 4 地域と共に歩む学校づくり

青梅市立吹上小学校

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策 (対応する学校経営案プロット)	評価(A,B,C,Dは%) 平均はA=4,B=3,C=2,D=1で算出			分析結果	改善策	学校関係者評価		学校の見解と今後の方向性																																																						
				教職員	保護者	児童			評価	コメント																																																							
1 学力の向上	基礎・基本を大切に、分かる授業を実現する。	言語活動を重視して基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と、自ら学ぶ力を育てる。	重要教科を国語と算数に定め、授業改善プランを活用し、基礎学力と学び合う力を育て、より広い応用力を付ける取組を実践する。	A	0.0	34.7	46.2	第1回に比べて教職員の評価が向上した。保護者・児童の評価は引き続き高いが、全国学力調査や都立学力調査の結果を見ると応用力が育っていないことが見受けられる。	日常的に課題追究型の授業を展開することで応用力を付けていく。授業改善プランを活用した授業を続ける。	A	児童のC・D評価をB以上になるように底上げをしていってほしい。A評価の児童も多いが、満足せず、よりよいものを目指していってほしい。基礎的な学力の定着を図り、応用力につなげていってほしい。	基礎的な学力の定着を図り、引き続き日常的に課題追究型の授業を展開することで応用力を付けていく。																																																					
			言語活動を重視した授業を日常的に実施し、思考力・判断力・表現力を育てる。	A	0.0	33.7	44.4						相違言葉や語型などを使うことで、表現力が身に付いている。話し合い活動を活かし思考力・判断力を高めるために、話し合う場の設定を工夫したり話し合いのテーマを吟味したりしてきたが、思考力・判断力はまだ十分育っていない。	引き続き、話し合い活動を活発にし思考力・判断力を高めていくために、話し合う場の設定を工夫したり、話し合いのテーマを吟味したりする。	A	「他人を大切にするためには、まず場をよむ力が求められる」学校便りの巻頭言を通して、学校の指導が明確になっている。先生方に自信をもって、授業をすすめていってほしい。より高い意識をもってほしい。自発的にできる子供たちをさらに高めていってほしい。	3年間校内研究でコミュニケーションの巻頭言を通して、学校の指導が明確になっている。先生方に自信をもって、授業をすすめていってほしい。より高い意識をもってほしい。自発的にできる子供たちをさらに高めていってほしい。																																																
			学年の発達段階を考慮した学習課題(宿題)を出し、学ぶ意欲を高めるとともに家庭学習の習慣化を図る。	A	21.4	39.5	56.0											教職員の評価が向上した。保護者の評価も概ね高い。家庭の協力により、担任のやり方が定着したと考えられる。校内で教員が宿題の情報を共有し、あったことも効果があったのではないかと。	家庭学習の仕方や質について折にふれて指導する。保護者会等も活用し、保護者への啓発も行う。家庭学習の質や量について、教員間で情報交換を行う。家庭学習の習慣ができていない児童については粘り強く指導を行う。	B	子供たちは宿題をきちんとやっている意識があるのだろう。家庭学習の習慣化により、自主性につながり、発展していきそう。取り組み姿勢を大事にしてほしい。保護者の価値観を高めていく必要がある。今後の学習につながる学習姿勢を身に付けられるようにしてほしい。	引き続き学校全体で家庭学習の習慣化を図り保護者会等で青梅市の家庭学習のすすめを活用し啓発を行う。また、家庭学習の質を上げるために予習・復習の重要性について学級活動などで指導していく。																																											
			強化月間を設け、校内外の人に気持ちの良い挨拶やていねいな言葉遣いができるようにする。	A	5.9	25.8	38.5																80%以上がAB評価で評価が高い。教員の評価で、C評価が10.5%から0%に減少したのは、1学期からの指導の成果を実感していること、11月の生活目標が言葉遣いについてのことだったので、校内の意識が高まっていたと考えられる。	校内で挨拶が活発に行われるように、引き続き教員が率先して挨拶をする。今年度11月に実施した、「やさしさの木」の取組を通して、児童は友達との温かい関わり合いを振り返ることができた。さらに改善して、来年度も実施したい。	A	挨拶ができる子はできるが、できない子がいる。まずは、先生方が率先して「笑顔」で挨拶を心がけてほしい。気持ちよく子供が挨拶を返せるように先生方も意識することで、よりよい子供たちの挨拶につながるだろう。	教員が率先して挨拶をするように心がける。「挨拶十一言」の挨拶をすることにより、児童との絆を深めていく。保護者にも働きかけ、挨拶の輪を広げていく。																																						
			生活指導月目標を基に共通実践を行い、きまり遵守、挨拶・返事などきちんとできるように規範意識を育む。	A	23.5	27.2	32.6																					保護者は87.9%、児童は80.2%がABの評価であり、保護者の評価が若干下がっているが、概ね規範意識は育っていると考えていることが分かる。教職員のAB評価が、前回より41.5ポイントも上がっているが、1学期からの指導の成果を実感しているからだと考えられる。	毎月の生活指導目標について学級ごとに具体的な取組を話し合う。教職員間で、取組内容を話し合い、児童の指導に活かす。また、身体測定の際には、全職員で声をかけながら、常に意識を向けるよう働きかけを続ける。大怪我を未然に防ぐようにする。	B	大きな怪我につながらないようにしてほしい。子供同士でも声を掛け合えるようにしていく。	廊下歩行は、年間を通して指導を継続する。学級指導でも教室移動のときに、整列して落ち着いて歩くことなどで意識を高める。廊下歩行について、児童がお互いに声を掛け合うことを賞賛し、校内に広めていく。																																	
			日々の道徳の授業の目標を明確にし、「特別の教科・道徳」の時間を工夫し、子供自身が自らを見つめ直すことができるようにする。	A	14.3	34.9	48.7																										日々の授業実践、道徳授業地区公開講座、副読本・ワークシートの持ち帰りなどにより、おおむね良い評価になっている。	引き続き、ねらいを明確にした授業を実施し、道徳の授業について家庭へ周知できるようにする。折を見てワークシート等を持ち帰らせる機会を設ける。道徳の授業以外でも価値項目にそった掲示物等を保護者に見てもらい機会を作る。	B	いのちの大切さなど、いじめ・自殺などにつながらないように、指導を続けてほしい。保護者にも内容が伝わるようにしてほしい。道徳授業を通して、家で道徳の話をできるようにしてほしい。親子の会話が増えるように。	SOSの出し方指導を行う。道徳の授業について、ワークシートのあり方、持ち帰りの方法などについて検討し、共通理解を図る。道徳の授業、評価等がどのように変わるか、年度当初に保護者会で説明する。																												
			自らの生活習慣に関心をもち、健康でじょうぶな体作りに取り組む力を育てる。	A	23.5	37.4	62.4																															大体の児童が基本的な生活習慣を身に付けている。なかには、就寝時刻が遅いことで生活リズムを崩す児童がごくわずかだがある。	各学級で、生活リズムの大切さについて引き続き指導する。また、保護者会や便り等で保護者への協力を呼びかける。	A	学校で指導を続けてもらうとともに、保護者に、生活リズムが乱れないように呼びかけてほしい。	引き続き各学級で、生活リズムの大切さについて指導していく。また、保護者会や便り等で保護者への協力を呼びかけていく。																							
			食の教育全体計画に基づき、食習慣の重要性について指導し、意識を高める。また、給食時には、よく噛んで食べられるよう指導する。	A	35.3	31.4																																					好き嫌いなく食べる児童がいる一方で、好き嫌いが多く、偏食をする児童がいる。高学年では家庭科で食について学習するが、早い段階から食習慣の重要性について指導していく必要があると考える。	学級指導を続けるとともに、学級活動や家庭科などでバランスのよい食事の必要性について指導する。また、身体測定の際には養護教諭から指導・声掛けをしていく。引き続き、栄養士を講師に招いた食育の授業を行っていく。	B	子供たちに食べられるものを作らせる、季節を通して栽培活動・調理・体験の活動の実践を積み重ねていくとよい。収穫して食べる喜びを感じさせてほしい。外部の活動への参加も積極的に呼びかける。	学級指導に加え、養護教諭からの指導・声掛け、栄養士を講師に招いた食育の授業も活用し、5年の米づくり体験などと結び付けながら食の大切さを実感させていく。																		
			外遊びを奨励していくことで、子供自身が意欲的に体力づくりに取り組める工夫をする。また、自らの体力や生活習慣に関心をもち、楽しく外遊びができるようになってきたと考える。	A	12.5	38.2																																										全体的に外遊びをする児童が増えている。外遊びを奨励することに加え、遊び道具を貸し出すことで、興味関心を引き、楽しく外遊びができるようになってきたと考える。	引き続き、外遊びを奨励していく。中休みは外で元気に遊ぶよう、児童への声掛けをしていく。また、なわとび週間やマラソン週間などの体力向上に向けて取組を継続していく。	A	先生が混ざってくれるのを子供たちが喜んでいる。ぜひ、一緒に遊ぶ中休みはほしい。教室に残っている子には、引き続き外遊びを促してほしい。	引き続き、外遊びを奨励していく。中休みは外で元気に遊ぶよう、児童への声掛けをしていく。													
			4 地域と共に	学校・家庭・地域が一体となった開かれた学校をつくる。	課題を共有し、地域の人材や資源を活用した教育活動を展開する。	ホームページや学校・学年・学級便りを工夫し、教育活動の様子を家庭・地域によくわかるように適切に伝える。	A																																														37.5	48.7		ホームページ、学校・学年・学級便りに関しておおむね良い結果だといえる。	ホームページの内容や更新回数を確認していくとともに、更新状況などを保護者に伝えていく。	A	学校ホームページは、学校の顔になるので、力を入れていってほしい。終わった後からも見られる、記録になることなどで残して欲しい。ホームページのアピールをしていくとよい。	今後もホームページの充実を図りつつ、学校便り等でホームページ更新状況をアピールしていく。					
						地域の教育ボランティアやゲストティーチャーを積極的に取り入れたり、様々な人達と交流ができるようにする。	A																																														13.3	49.7							保護者にはおおむね高い評価を頂いたが、もっと活用できるのではないかと考えている教職員もいる。	保護者のボランティアは、今後とも学年を超えての活用を図っていく。地域の人材の活用について、さらに進められるように人材の整理を進め、必要な時に来ていただけるようにする。	B	ボランティアの活躍が素晴らしい。地域の協力を活用するとよい。元気なお年寄り等を活用する場も作ってほしい。民生委員も協力していきたい。人材の発掘を続けていく。祖父母の活用も考えるとよい。	教育ボランティアやゲストティーチャーの方に、必要な時に来ていただけるように人材の整理を進め、人材リストを更新しつつ、さらに活用を進める。
						組織の細分化を図り、さらに連携を深めて小中一貫教育の充実を図る。課題解決に向けて、具体的な取組を実践する。	A																																														0.0	24.6											
児童が運動に親しみ、体力の向上に努められる組織的な学校体制をつくる。	A	13.3				36.6		1学期に行進練習・ラジオ体操をすることにより、体力や健康の意識を高めるだけでなく、集団行動や規律面でも意識させることができていると考える。ICTを活用し、児童がわかりやすく取り組めることができていくと考える。	引き続き、体育集会や授業を通して健康の増進・体力の向上について意識を高めていく。2学期以降もなわとび週間・マラソン週間の際に児童の興味を高められるような体育集会にする。	A	子供たちがやる気になる活動を工夫して運動量を増やすようにして欲しい。運動が日常化するように子供たちの運動の様子を称賛し、興味を示したり、頑張りたいと思えるようにして欲しい。	運動量の豊富な体育授業になるよう活動の工夫をしていく。授業や遊びの中で、児童の様子を賞賛したり、児童同士で励まし合ったりすることで、運動への意欲が高められるようにする。																																																					
体育指導や体育朝会の実施方法を工夫・充実させ、健康の増進・体力の向上を図り、運動の日常化に努めている。	A	80.0				56.0							引き続き、健康の増進・体力の向上について意識を高めていく。2学期以降もなわとび週間・マラソン週間の際に児童の興味を高められるような体育集会にする。	引き続き、健康の増進・体力の向上について意識を高めていく。2学期以降もなわとび週間・マラソン週間の際に児童の興味を高められるような体育集会にする。	A	子供たちがやる気になる活動を工夫して運動量を増やすようにして欲しい。運動が日常化するように子供たちの運動の様子を称賛し、興味を示したり、頑張りたいと思えるようにして欲しい。	運動量の豊富な体育授業になるよう活動の工夫をしていく。授業や遊びの中で、児童の様子を賞賛したり、児童同士で励まし合ったりすることで、運動への意欲が高められるようにする。																																																
児童が運動に親しみ、体力の向上に努められる組織的な学校体制をつくる。	A	6.7				6.8												引き続き、健康の増進・体力の向上について意識を高めていく。2学期以降もなわとび週間・マラソン週間の際に児童の興味を高められるような体育集会にする。	引き続き、健康の増進・体力の向上について意識を高めていく。2学期以降もなわとび週間・マラソン週間の際に児童の興味を高められるような体育集会にする。	A	子供たちがやる気になる活動を工夫して運動量を増やすようにして欲しい。運動が日常化するように子供たちの運動の様子を称賛し、興味を示したり、頑張りたいと思えるようにして欲しい。	運動量の豊富な体育授業になるよう活動の工夫をしていく。授業や遊びの中で、児童の様子を賞賛したり、児童同士で励まし合ったりすることで、運動への意欲が高められるようにする。																																											
児童が運動に親しみ、体力の向上に努められる組織的な学校体制をつくる。	A	0.0	0.0		引き続き、健康の増進・体力の向上について意識を高めていく。2学期以降もなわとび週間・マラソン週間の際に児童の興味を高められるような体育集会にする。	引き続き、健康の増進・体力の向上について意識を高めていく。2学期以降もなわとび週間・マラソン週間の際に児童の興味を高められるような体育集会にする。	A																子供たちがやる気になる活動を工夫して運動量を増やすようにして欲しい。運動が日常化するように子供たちの運動の様子を称賛し、興味を示したり、頑張りたいと思えるようにして欲しい。	運動量の豊富な体育授業になるよう活動の工夫をしていく。授業や遊びの中で、児童の様子を賞賛したり、児童同士で励まし合ったりすることで、運動への意欲が高められるようにする。																																									
児童が運動に親しみ、体力の向上に努められる組織的な学校体制をつくる。	A	3.1	3.3																						引き続き、健康の増進・体力の向上について意識を高めていく。2学期以降もなわとび週間・マラソン週間の際に児童の興味を高められるような体育集会にする。	引き続き、健康の増進・体力の向上について意識を高めていく。2学期以降もなわとび週間・マラソン週間の際に児童の興味を高められるような体育集会にする。	A	子供たちがやる気になる活動を工夫して運動量を増やすようにして欲しい。運動が日常化するように子供たちの運動の様子を称賛し、興味を示したり、頑張りたいと思えるようにして欲しい。	運動量の豊富な体育授業になるよう活動の工夫をしていく。授業や遊びの中で、児童の様子を賞賛したり、児童同士で励まし合ったりすることで、運動への意欲が高められるようにする。																																				